

# 石灰窒素の効果的な使い方

## 4. 石灰窒素による青刈作物すき込み

### [青刈作物の腐熟促進]

(1) 近年、野菜の産地などで、連作により生産力の低下や病害虫の発生が問題となっています。そのため、作付前に青刈作物（緑肥作物）を導入することで、地力増強や連作回避の対策が行われています。また、ハウスでの塩類障害対策（クリーンクロープ）、休閑中の土壌侵食防止や養分流出防止（カバークロープ）、雑草の生育抑制や虫害抑制（リビングマルチ）、炭素貯留など、環境保全対策にも青刈作物は効果を発揮することがいわれています。

青刈作物としては、イネ科作物では飼料用トウモロコシ、ソルゴー、エン麦など、牧草ではギニアグラス、イタリアングラスなど、マメ科ではヘアリーベッチ、クロタラリア、赤クローバーなど、キク科ではマリーゴールドなどがあります。

(2) 連作障害対策として近縁の作物でないイネ科作物が多く使用されており、例えば、ソルゴーやエン麦（ヘイオーツ）は生育旺盛なため、有機物の供給源として適しており、土壌物理性の改善など土づくりに役立ちます。また、マメ科作物は養分の供給源としても利用されます。

その他、エン麦、マリーゴールド、クロタラリアなどはセンチュウ対策として、ヘアリーベッチは抑草効果としても作付けされています。

(3) 青刈り作物で、特にイネ科作物は生育量も多く、一般に炭素率が高いので腐熟が進みにくいため、良く分解させないと作物に障害が起こることがあります。この対策に、石灰窒素により腐熟を促進することで、作物の収量と品質を高めることができます。

また、青刈作物をそのまますき込むと病害虫の発生が多くなることがあるので、石灰窒素を併用して腐熟促進を行ってください。もともと石灰窒素は、センチュウや根こぶ病対策で使われるので、青刈作物と併用することで、相乗効果が期待できます。

### [青刈作物のすき込み方法]

(1) 刈り取って細かく裁断した青刈作物の上に、石灰窒素を散布し、耕起してください。イネ科作物は生育量が多く背が高くなると専用の裁断機を使う必要があり、また種子ができるので分解しにくくなるので適期の刈り取りに留意して下さい。石灰窒素施用量はすき込み時の青刈作物の生育量などによって異なりますが、一般に20～60kg/10a施用してください。

(2) 次作の播種・定植は、青刈作物が良く腐熟するまで、すき込みから20～30日の期間をおいてから行ってください。

以上